

東北日日新聞

本紙は毎月三十一日発行され、毎朝五時三十分より発行される。印刷部は石巻市にあり、編集局は仙台市にある。電話は石巻市に掛かると、東北日日新聞社と云ふ。

町有地と整理案

町當局が多年の懸案であつた町有地整理はその後、町當局の英断によつて、整理部を設立した上、分擔事務を開始し、鐵道以北を先始めにそれ、着手して大町、南白銀町も終了したが、驚くべき数字にのぼつてゐるので、係員も呆然としてゐる。第一案としては、侵略してゐる地主へ撤去指令を出して自發的に撤去せしむる方針を執つてゐる。第二案としては、建造物その他の關係から即時撤去の不可能な部分へは、適當の時機まで保留し、借地料を徴収することにし、第三案としては、絕對に撤去不可能である場合は相當な時價を以て賣却するといふ方針である。

町有地の無断使用者多数に上る

田町通り等は整理の結果、相當廣い道路になる。平町役場では既報の如く四道路になるであらう。月以來より引續き全町に亘つて町有地調査の歩を進めてゐるが町有原野並に町道路の兩側などの大部分が知らず知らずのうちに關係地主からさんしょくされ、町有地無断使用個所は驚くべき數に達して居り殊に目下調査をなしつゝある田町通りは甚しく町道路を侵してゐるものが非常に多いため、當局では一々これに目標を立て、整理をなし無断使用の地主に引ッ込み方の交渉をなしてゐるのでその結果、同通りは現在より相當廣い飯場頭朝鮮人佐藤長三郎長

海軍在郷軍人簡閱點呼

七月廿一、二の兩日、本年度海軍在郷軍人簡閱點呼は七月二十一日、二十二日の兩日小名濱港に於て北上二等巡洋艦上で行はれるが召集は平、植田四ツ倉警管内である。

飯場頭の娘無断家出

懸賞付で捜索中。石城郡磐崎村藤原三井炭礦飯場頭朝鮮人佐藤長三郎長

學校を通して見舞金を送る

田村中學の暴行事件に、被告の父兄が平町に集り、田村中學に於ける暴行學出する事なるらしいが、被告は全部司直の取調を受け全部の辯護士には北川、兄は二十六日それ、召喚に内定した由である。

上遠野村の火事

牛二頭焼死。二十五日午前〇時半頃石城町の對抗が此の結果を招來したものである。恨があらう。つたど見る事も出来ない。二十五日午前〇時半頃石城町の對抗が此の結果を招來したものである。恨があらう。つたど見る事も出来ない。二十五日午前〇時半頃石城町の對抗が此の結果を招來したものである。恨があらう。つたど見る事も出来ない。

平署員全部の剣道大會を舉行

明日同署武道場に於て。明二十七日午前八時から平署員一同の剣道大會を同署武道場に於て舉行されるが、組數合計二十九組あり相當の盛會を豫想されてゐるが當日組合せは左の如し

- ▲六級紺野 全 小野
- ▲全 櫻井 全 奥村
- ▲五級紺野 全 西關
- ▲六級横山 五級泉
- ▲四級春川 六級穂積
- ▲全 大谷 五級金子
- ▲五級高子 全 石井
- ▲全 佐藤 全 星
- ▲全 佐藤 四級長谷場
- ▲全 鳴志田 五 林
- ▲全 井上 全 兒島
- ▲全 宗像 全 仁島
- ▲四 菊地 全 瀬戸
- ▲全 鳴原 全 大谷
- ▲五 蛙田 三 字南山
- ▲四 金田 四 眞弓

- ▲五 佐々木五 橋谷田
- ▲四 橋本 五 矢野
- ▲三 武山 三 志田
- ▲全 小手森 全 佐藤寅
- ▲三 半澤 三 高橋勝
- ▲四 榎原 二 本田
- ▲二 榎木 一 長山
- ▲初 七海 一 齋藤
- ▲一 若林 初 佐久間
- ▲一 荒井 一 鈴木
- ▲二 鈴木長 二 鯨岡

炭車に衝突

無惨な即死を遂ぐ。石城郡内郷村高坂石城炭礦長屋居住鈴木一郎(三三)は二十三日午前八時ころ同坑内に於て作業中急傾斜を下りて来た炭車に強打し無惨な即死を遂げた。

平内郷宮間の自動車路線許可

炭礦従業員の便宜を計る。平町から内郷村御臺境を通り同村宮に至る自動車運轉の路線許可運動は昨年來より同村鈴木某外數名によつて行はれて来たが、いよいよ來月上旬許可の指令に接する事になつたので關係者等は路線の改修工事に着手する筈であるが同區間の自動車運轉は一万近くの炭礦従業員とその家族を有する宮方面にとつて極めて便宜を與へられることとなるので非常に喜ばれてゐる。

警察部長來平

歌川警察部長は平署事務査閲のため本日午前九時四分の列車で來平した。

齒科醫師總會

昨二十五日午後三時から平町町末廣亭に於て石城郡齒科醫師總會を開催し、縣下ムシ歯豫防の宣傳その他を協議散會した。

水野藥局

印刷の御用は平町驛前(白銀町)丸山印刷所 電話八五二番

丸山印刷所

電話八五二番

本社一週年紀念石城郡三十六
住選人氣投票實業家當選者

關内正一氏

政治的の舞臺面にたてる氏の背景は、なかくに色濃いはかりでなく根差し深いものである。配するに機略方腕が来らんとする縣議戰の第一闘王として、候補者としても優越な位置に安置してゐる。

進取的な一途を歩むことの出来る人としての關内氏、その資格條件にパスしてゐる正一氏が、因縁とを切放して敢然として實行機を捕へるか、否かは氏の胸中に深く潜在するところの秘策であらうが、要するに、少壯實業家としての敏活な商才がその延長としての政治的方面の絶好の機會を逃して仕舞ふやうなことは萬ないであらう。

そして亦、石城政友部會としても、白羽の矢を立てるのに新人としての識量ある候補者は、なかなかないことであらうし少壯幹部は敢然として擁立して戦ふだけの自信もあるであらう。

氏は思はれてゐる舞臺と背景と、底力とを有してゐるが、唯一の完全なる闘争武器としての最良なるものである。

時潮を観るの力あり、愛國的の熱意あり、教養と力量ある人にして始めて新人と稱すべし。關内正一氏の所持するものと、天分とを合することにして決して、幾多縣會議員に劣るものではないこの一言若し過賞であるといふ者あらんか、現在福島縣會議員の銘ある群少議員を視よ、といふであらう。

氏が、質實な歩み方をしてゐることも、ある意味における雄伏時代の準備的行爲であらうし、黨人的な意識からの考へ方でもあるであらう。

部會内における信望ある幹部として、その充分なる基礎を有するもの實に甚だ尠ないことを遺憾とするが、それでも民政黨部會のそれに比すれば、多士齋々である。

馬目、多田井、千葉、佐々木、阿部氏の顔振れが揃つてゐるし、それ等の戰士の中から来るべき縣議候補者を獲やうとしたならば、阿部氏と關内氏とを先づ獲られやう。

氏の前途は多忙であるといふことは直前の観られてゐることは直前の抜き差しならぬ事實である。

雄躍して進出するのみの約束の下におかれてゐる關内氏が、部會の起用を必要とせず、自重自愛し着々戰闘意識を以て一歩から一歩へと行進すべきである。

展開された輝かしい前途こそ滿を持せるさい腕識見を振ふべき活舞臺がまつてゐるであらう。

運命が黙して去らんとせば敢然として捕へるのみである。

關内正一の沈黙の戦闘より生れる新戰場への歩みを熱禱する。(終り)

思想善導劇

商店訪問

俳優マラソン競走

各商店よりマラソン競争勝利者が戴いたる賞品(芝居見物)御客様へ御土産として進呈仕ります

新派相聲會若手俳優一座

大景品進呈

當ル五月廿六日ヨリ向フ五日間
花火台圖午後五時開場

館樂聚 催主

趣味と滋養強壯の

乳酸菌飲料

「ホシラクゲン」

朝の一杯は頭腦を明晰ならしめ
晝の一杯は活動の根源となり
夕べの一杯は疲勞回復、一夢の和樂となる

▲胃腸の障、下痢には極めて偉効あり
▲絶対類似品の追隨を許さず

大ビン一本 金一圓四十錢
中ビン一本 金七十五錢
試用ビン一本 金十錢

平町三丁目
ホシチエンストア
電話四二九番

……的術藝し用應を光探の新最は影撮

すまし致製調を真寫……

門專像省

館真寫島中

……てに法光探の特獨館弊は影撮間夜
んせまりあり變と影撮間晝……

一九三〇年式の

浴衣御案内

粹で！高尚で！

現代的な！

婦人俱樂部浴衣 昭和調婦女界ゆかた
リーグ戦ゆかた 繪羽模様構成浴衣
外十數種豊富に取揃へて
陳列致してあります

洋傘と本セルの特賣

三井呉服店

海岸線平町

大衆向音樂の寶庫

六月の新譜發賣

獨逸バルロ

フオンレコード



特別發賣特製アルバム添附

- | | | |
|-----|--------------|----------|
| 義太夫 | 繪本太功記 | 故竹本染太夫 |
| 浪花節 | 十段目尼ヶ崎の段 | 三味線廣澤豊作 |
| 全 | 孝子萬兵衛 | 春日亭清吉 |
| 全 | 吉岡兼房 | 東家左樂遊 |
| 全 | 父歸る | 天光軒滿月 |
| 全 | 文句入 | |
| 小唄 | 都々逸 | 柳家三龜松 |
| 全 | 新編緑江節 | 山村豊子 |
| 全 | 新開の五本松 | |
| 管絃樂 | ラフ、イン、アルドルネス | 新交かく團 |
| 吹奏樂 | オリエンタルダンス | 大日本帝國軍樂隊 |
| 全 | 活提三郎 | 佐藤樂長指揮 |
| 全 | 正調江差追分 | 繁田雲濤 |
| 全 | よんがら節 | 石山みつ子 |
| 全 | 洋輕小原節 | 一戸兼作 |

平町二丁目
販賣店 三幸堂

創業廣告

今般時代の趨勢に鑑み合資會社高橋商會を創業いたし左記營業種目に依り親切第一主義を以て營業致す事相成り候間何卒御利用御用命の程御願ひ申上候

營業 燃料、材木

種目 金融、仲立

平町白銀町一

合資會社 高橋商會

代表者 高橋龜松

山本齒科醫院

平町白銀町驛前通り

和洋結髮 化粧法
衣裳着附



染毛洗頭
美容正術
美毛美容術
美爪美容術

平町田町
東京美容院分院
佐藤ミネ子